う、」

賢「姉さん是で宜いよ、」

しげ「然うでない、暖い様にしてやるから、」

後ろへ廻つたおしげが免して下さいと心に詫グッと其手拭を縊あげた

何で堪りませう賢次は撞と夫へ倒れる、夫を見たおしげ、姉の手づか

ら現在の弟を殺すも佛説で云ふ前世の宿縁、お前一人は殺しません何

れ妾も冥途に行つて詫をする、と其儘向ふへ駈出す、折しも此處へ來

りしは

フシ『一人の巡査、倒れし少年を眺め、加害者は何れにあるやと八方

を見廻せど人影も無し、再び少年の傍に近寄て眺むれば、幸ひにも

蘇生の見込あり。』

抱き起して介抱いたしました、

賢「アッ〳〵、甚ひ目にあわせやアがつた、」

巡査「何うしたか、氣を確にもて、」

賢「ヘエ、是は有難う御座ひます、」

巡「加害者は何人だ、お前の首を縊た者は何う云ふ人物であつたか、

何者が縊たか、」

賢「ヘエ、今此處を通りますと後ろから來た奴が不意に首を締ました、

然し何な奴だか判りません、」

巡「ウーン、お前何處か、何處に住居て居る、」

賢「北伊賀町山本安藏の家に居ります、」

巡「貴様はぐづり安の子分か、」

賢「ヘヱ、」

巡「賢次郎だな、貴様は死だ方が宜つた、然うとは知らず餘計な手を汚した、貴様なら助けるじやなかつた、犬にも劣る奴じや、犬は賊の用心をするが汝等は賊と共謀して惡事をする、助けるでは無つた、何れ明日警察へ招くから逃隱をせずに出て來イ、大方金を得やうとして

此處まで尾て來た處が、先方が強ひ爲に反對に殺れたんであらう、然うだらう、明日は必ず警察へ呼寄せるから待て居れ、」

云ひすて巡査は向ふへ行く、後ろ姿を見送つた賢次郎、思はず身振ひして

賢「姉さん、何うぞ免して下さい、堪忍して下さい、始めて無明の夢が覺ました、人民保護の警官が貴様なら助けるで無つた死でしまへと云はるゝは能々の事、萬物の長と云ふ人間が犬にも劣ると云はれました、是から心を入れ換て立派に川崎の家名は再興をいたします、」

ラシ『覺悟いたした賢次郎日本の地を去て米國へ洋行し、艱難辛苦を

爲した後工學士の學位を得て故郷に飾る錦、茲に川崎の家名を再興
爲す、青年の摸範川崎工學士の立志談茲に止めて置きまする。』

京山若丸
京山恭爲

浪花節十八番 終

大正二年六月一日印刷
大正二年六月五日發行

（價金二十錢）

編輯者　桑野桃華
發行者　東京市芝區三田三丁目七番地　神谷竹之輔
印刷者　東京市神田區表神保町十番地　今成温平　電話本局四九三二番

發行所　東京市芝區三田三丁目七番地
電話芝三一七六番
振替東京壹壹壹六番　三芳屋書店

若丸恭爲
浪花節十八番
不許複製

表題の同じき類書あり御注意

桃中軒雲右衛門入道師題字
東京日々新聞記者　桑野桃華君編

浪界三傑講演集

（第七版發賣）

三傑寫眞挿入
袖珍形全一册
定價金三十錢
郵税金四錢

桃中軒雲右衛門
吉田奈良丸★京山小圓
道入

浪界の三傑である事は誰れも知つてゐる、天下に浪花節を語る人は澤山あるが三傑の右に出づる者は一人もない、浪花節の天下は即ち入道、奈良丸、小圓三人の天下であると言つても敢て過言でない、三傑の浪花節は各々異なつた妙味を有し互ひに雄飛してゐる、其講演集の如きも個々別々に出版されたものは澤山あるが三傑を一ッに蒐めたものは未だ嘗てない、この書は即ち雄大なる雲入道、纖細なる奈良丸、絢爛なる小圓が各々得意の讀物を蒐めたもので苟くも浪花節を語る程の人は必ず座右に一本を備へて置かればならぬものである。

浪花節讀物改良の第一着手として

吉田奈良丸師の講演せる

新作赤穂義士

▼本文二色刷

四六判　全一册
紙員三百五十頁
定價金五十錢
郵税金八　錢

○大石内藏助……（細川邸切腹より御預けまで）
○堀部安兵衛……（江戸探り上杉邸の間者）
○萱野三平……（早打より忠孝両全の切腹まで）
○天野彌五右衛門……（義士外傳の一節）
○不破數右衛門……（新刀試しより二度目の御暇まで）

福本日南先生題字

○大石主税……（山科出立より切腹まで）
○片岡源五右衛門……（御家の大變より討入まで）
○前原伊助……（生立より吉良邸間者まで）
○水沼久太夫……（義士外傳の一節）
○吉良の性格……（義士本傳の一節）
○吉良邸討入……（泉岳寺評定より討入まで）
○吉良邸討入……（東西両部隊の奮闘より引揚まで）

▼フシ付赤刷

▼洗厓、素洲。兩畫伯畫
▼口繪　コロタイプ寫眞版數葉

浪界十六大家の競演

浪花節名人揃

▲出演者　雲月、辰燕、宿堂、樂遊、勝太郎、重友、嘉市、鶴城、辰雄、清吉、恭爲、峰吉、樂燕、虎丸、小樂、武藏、

四六判全一冊
紙員二百餘頁
定價金三十錢

演題

赤垣源藏傳　豐岡紋彌
紀文大盡　大高源吾傳
安中草三　三人書生
瀧夜叉お仙　幡隨院長兵衛
俠僕丹次　高野の義人
河内山宗俊　大石廓通ひ
血の涙　鹽原馬の別れ
柳生旅日記　盡ぬ恨

本文フシ付

浪界大家の競演

武士道銘々傳

四六判二百頁定價金卅五錢

柳田角之進
松前鐵之助……龜甲齋雀堂

梁川庄八
魚屋本多……玉川勝太郎

淺岡の道
太田灌局……龜甲齋虎丸

淺香三四郎
安宅鄉右衛門……木村重松

木村重成……浪花亭峰吉

潮田主水……桃中軒雲右衛門

浪花節書類

桃中軒風右衛門講演 ◉雪の曙義士本傳 定價金三十五錢 郵税金六錢

浪界諸大家競演 ◉雪の曙義士銘々傳 定價金三十五錢 郵税金六錢

浪界諸大家競演 ◉雪の曙義士外傳 定價金三十五錢 郵税金六錢

京山隅右衛門講演 ◉佐倉義民傳 郵税共金二十五錢

桃中軒風右衛門講演 ◉正宗孝子傳 定價金二十錢 郵税金四錢

浪花亭峰吉講演 ◉伊賀の水月 定價金四十錢 郵税金六錢

浪花節奬勵會編 ◉元和三勇士 郵税共金三十錢

浪花節書類

玉川勝太郎講演 ◉北越孝子傳 郵税共金三十錢

鼈甲齋雀堂講演 ◉お岩稲荷の由來 郵税共金三十錢

畠山松雪講演 ◉梅川忠兵衛 郵税共金三十五錢

浪界諸大家競演 ◉浪花節大集會 定價金二十錢 郵税金四錢

浪界諸大家競演 ◉浪花節研究會 定價金二十錢 郵税金四錢

鼈甲齋雀堂講演 ◉水戸黄門漫遊記 近刊

木村重友講演 ◉稲妻お玉 近刊

274
182

終

三芳屋書店